

人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん :-) 2006)  
『文化情報学のパースペクティブ-デジタルアーカイブへの新地平-』

## 趣 意 書

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3  
同志社大学文化情報学部 阪田研究室  
じんもんこん 2006 事務局

主 査: 相田 満(国文学研究資料館)  
実行委員長: 村上 征勝(同志社大学文化情報学部)  
プログラム委員長: 八村広三郎(立命館大学情報理工学部)

人文科学とコンピュータ研究会は、1999年に第1回「人文科学とコンピュータシンポジウム」を開催し、以来「デジタルアーカイブ」を主なテーマとしたシンポジウムを毎年度開催してきました。第8回目となる今年度は、デジタルアーカイブの新たな地平の開拓を目指して「文化情報学のパースペクティブ-デジタルアーカイブへの新地平-」をテーマとしてシンポジウムを開催いたします。

本研究会の目標は、人文科学研究における各種学術/文化資料等を情報処理技術で取り扱い、当該分野の研究に寄与すること、またこのような活動を通じて得られた知見を情報分野へフィードバックすることです。本研究会では、既に歴史学・考古学・人類学・民俗学・文学・芸術等の分野において情報処理技術を用いたアプローチが試みられ、人文科学の対象となる資料をデジタル化した上で保存・流通・共有する為の研究が進められてきました。そのことは、今日のデジタルアーカイブという文言の浸透度が端的に示すように、その意義や必要性が認知され始めたことの証左とあって差し支えないでしょう。

しかし、その一方で現在まで多くのデジタルデータが収集・蓄積されてきてはいるものの、その膨大で無秩序なデータを統合・基盤・体系化するための方法論や、データから歴史・文化の基底にある本質的な価値・意味を再構築するための議論、あるいはデータに基づいた分析的視点そのものは、未熟な段階にあると言わざるを得ません。

そこで、本シンポジウムでは、データサイエンスの手法を用いて的確にデータを抽出・解析し、学際的視点から文化現象の本質解明を目指す新たな知としての「文化情報学」の創成を提言した上で、デジタルアーカイブの新地平について議論を展開いたします。そして、研究教育機関と産業界、ならびに行政との積極的な連携を図りつつ、上記の理念を押し進める技術開発や応用事例の交流を行います。

テーマ: 歴史・文化資(史・試)料のデータ化・保存、画像・映像データベース、デジタル文書標準化、情報検索、レファレンスサービス、文献・芸術・文化解析、モーションデータ、データマイニング、テキストマイニング、数量的解析、メタデータ、デジタル図書館/博物館、保存科学、知的財産権、立体形状・色彩処理、自然言語処理、ヒューマンインタフェース、セキュリティ/課金技術、GIS、WebGIS、CAD、RasterCAD、CT などの形状・実体情報、教育利用、管理・運用面での課題や事例など。

## シンポジウム概要

会 期: 2006年12月14日(木)・15日(金)

会 場: 同志社大学 今出川キャンパス(京都市上京区今出川通り烏丸東入)

寒梅館地下会議室・クローバーホール他

主 催: 情報処理学会/人文科学とコンピュータ研究会

共 催: 同志社大学文化情報学会/科学研究費基盤(A)「データ科学の新領域の開拓—文化財データ解析—」

後 援: 情報知識学会、日本情報考古学会、(以下予定)電子情報通信学会、記録管理学会、アート・ドキュメンテーション学会、日本アーカイブズ学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本行動計量学会、日本計算機統計学会、日本統計学会

照 会: E-Mail: chs06@mail.doshisha.ac.jp

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学文化情報学部 阪田研究室

じんもんこん2006事務局 Tel/Fax: 0774-65-7703

<http://www.cis.doshisha.ac.jp/htsumura/jinmonkon2006/index.htm>